



# 新聞

JADDO 第9号  
1994年 12月 5日 新

## JADDO

アジアのこども達を援助する会

事務局: 〒895 鹿児島県 川内市 神田町 11-20  
若松記念病院となり 若泉堂薬局  
TEL. 0996-20-1402

### ドンカルム村小学校 衛生環境調査 検便 健康教育

雨期が終わり道路が乾いたのでドンカルム村へ行くことができました。

マホソト病院（国立のラオスで一番権威ある病院）の細菌検査室室長のピモン医師に同行してもらいました。

学校で寄生虫の感染経路、予防法（火を加えた料理、裸足にならない、便はトイレでする等）そして便検査の説明をしてもらいました。

数日後に病院に便が届きピモン医師の検査により結果がでましたので寄生虫卵のみつかった児童へ薬を持っていきました。

薬は体重にあわせて量を加減します。ドンカルム村のヘルスセンター所長サグヌアン氏は大変優秀なので彼に薬の管理をお願いしました。後日記録を確認しましたがたいへん正確でした。

また、サグヌアン氏のほうから11月に健康の話をするなら自分がやりたいと提案しました。同行していたドクター・ソムサナも彼なら十分やれるだろうと賛成してくれました。

11月23日にラオス人医師の同行無しで健康教室を行ないました。わたしたちはテレビ、ビデオを持っていきタイ語のビデオを子供たちに見せて、サグヌアン氏がWHO（世界保健機構）のポスターを使いながらラオス語で下痢対策、手洗い励行を話しました。又今年大流行したデング熱は蚊により広がること、マラリアの予防にもなるのでは蚊帳の中で寝ること等楽しく説明してくれました。

このように村のヘルス・スタッフが中心になって動いてくれるととてもやりやすいし、JADDOの援助が終わっても続けていこうと思われて心強かったです。



寄生虫の話をするドクター・ピモン

全校生徒に話をするので校庭に集まってもらった。子供たちは教室を離れるときは肩かけカバンを持ってくる。写真で足の見える子のうち2名は、裸足です。寄生中予防の為にゴム草履や靴をはくように勧められているが、子供に裸足を禁ずるのは大変難しそう。



ポスターを持って説明するサグヌアン氏と真剣な顔の子供たち

## 乾期と雨期

雨期は日本の梅雨とは違い、一日中雨が降るのではありません。毎日、集中豪雨が30分～1時間ずつ日に2～3回つづやってくるようなものです。雨が降るたびにメコン河の水位が上がり、中ノ島が完全に水没しました。乾期と雨期とではメコン河の水量が50倍違うと聞いたことがあります。島には畑が広がっておりたくさんの農耕用水牛が飼われています。水牛を島から川岸に移動させてあったのでしばらくは川岸の道路は水牛通りと呼びたいほど水牛でいっぱいでした。

ビエンチャンの市街地でも床上浸水で休業しているレストランや店も多く、道路からいかに家に入る様にしている人もいました。家は床上浸水しているのにどうやって暮らしているのでしょうか。

市街地の道路がいたるところで水没して、子供達のプールになっていました。雨期の間、水は少しひいては又増える状態ですが、レストランは床が見えてくれば営業再開、店は商品をおければ営業再開です。

今年は例年になく雨量が多かったようですが国の背骨というべき国道13号線が水没で2カ月間も寸断されたままです。ビエンチャンから南へは船で濁流のメコン河を下るか飛行機で行くか、あるいはタイを通過していくかしかありませんでした。そのためいろいろな仕事が中止、延期になったのですが誰もあせらないでゆったりしていました。来る予定の人が連絡無しで来なくても、ああ道路が通れないからだろう、通れるようになったら来るだろうでお願いします。

電話も発達していないので一般の人たちの連絡法はもよりのバス停にあって、連絡したい人のいる村に行く人を見つけてことづけをするやりかたです。道路が寸断されるとバスも通らないので、どうしてもというときは船を借りたり、泥水の中を首までつかりながら歩いて渡ったりしながらやってきます。

赤い粘土の道路では車は簡単に横滑りしますし、歩いてみると靴やゴム草履が粘土にとらえられて足があがらないか、靴だけ残し足だけ抜けてしまうかでものすごく歩きにくいです。

ラオスの人は「まあそのうちに乾期になれば水はひくんだからそれまで待てばいい。」と、ゆっくりしています。日常生活はそれでもいいようにも思えますが実際はかなりの田んぼが水没してしまい、今年の稲作は大変な打撃を受けそうなのです。たぶん今年はお米が値上がりしそうです。現金収入のない農家はどのようにのでしょうか。日本からの緊急援助が届いたということです。こどもたちが充分ご飯を食べられるといいのですが。

## ドンカルム村小学校 寄生虫 検査結果

小学生総数	268人	
回収した便の数	236検体	
寄生虫陽性者	1年生 15人	71人
	2年生 7人	
	3年生 13人	
	4年生 16人	
	5年生 20人	
寄生虫保有率	30.08%	
便トリコモナスのみを有するもの(治療を要さない)	11人	
治療を要するもの	60人	

ラオスの医学部、寄生虫教室のキンカム医師の案で寄生虫予防のポスターを作成中です。かわいい図柄のポスターができそうです。

## 事務局からのお知らせとお願い

JADDO新聞第6号裏面に載せました毎日新聞の記事の掲載された日に宮脇俊郎JADDO事務局長に宮崎県北川町中央公民館から童話等書籍の援助申し出をいただきました。とてもありがたいのですがラオスへの輸送、ラオス語への翻訳を考えると大変難しく、申し訳なかったのですが辞退させていただきました。せっかくのご好意を大変申し訳ありません。どうもありがとうございました。また山口県などからもいくつか問い合わせをいただきました。

JADDOに関するお問い合わせは  
 宮脇事務局長 TEL.0996-23-1934  
 あるいは  
 寿泉堂薬局(牧田) 0996-20-1402  
 へお願いします。

## JADDO会費について

一口 2,000円(高校生以下1,000円)として年会費をいただいております。前回分が1994年9月30日までとなっておりました。今回1995年9月30日までの一年分として会費をいただけませんでしょうか。当方の仕事が遅くお知らせが遅くなり申し訳ありません。郵便振替払い込み取り扱い票を同封させていただきました。ご面倒をおかけいたしますうえに手数料もご負担いただくこととなりますがどうかよろしくお願いいたします。

平成5年度会計報告および平成6年度予算につきましては平成6年7月30日のJADDO総会におきまして承認をいただきました。総会に欠席された方で会計報告等をご希望の方は上記連絡先までお知らせくださいませ。